

はじめに

3月11日の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この度の未曾有の大災害の直後において、更にその後の復興の課程において医師、看護師を始めとする医療・福祉の専門職の存在が、如何に被災地の人々にとって心強いものかが再認識されたと思います。医歯薬コースの卒業生達も改めて「医療職の道を選んで良かった。こういう危機の時に人々の役に立てるから。」と語ってくれています。

原発事故を含む大災害からの復興にはまだまだ長い時間がかかることでしょう。しかし、医歯薬コースで学ぶ諸君や卒業生達が高邁な理想と強い気概をもって素晴らしい未来を築く原動力となってくれるものと信じます。皆さん、自らの将来の方向性を考える際には是非今回の震災体験から学んだことを忘れないで下さい。

第1回医歯薬講演会

4月18日(月)の総合学習の時間に、第1回医歯薬講演会を実施しました。講師の先生は本校医歯薬コースの卒業生で、現在 筑波大学医学群医学類6年に在籍している室伏佑香先生です。大学受験から、医療の在り方についてまで、熱心にお話しをしていただきました。



1年春の学習合宿

5月10～13日までの3泊4日の日程で新入生共同宿泊学習が行方市のレイクエコーで行われました。学校の授業時間と異なり、一時限90分と普段の倍ほどの授業時間で実施されました。初日は後半に集中力が続かないようでしたが、4日目になると、時間にも慣れ後半まで集中力を切らず学習できるように



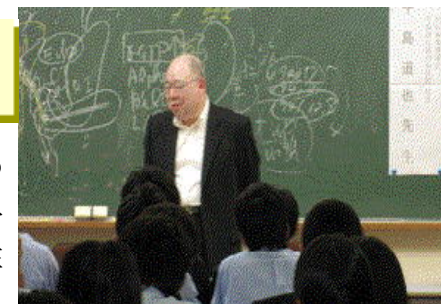
なっていました。朝から晩まで勉強に没頭することで、学習面での自分の足りないところ、基本的生活習慣の大事さを理解することが出来た有意義なものであったと思います。

〈これからは生活態度も学習態度も崩さず、しっかりと生活して行きたいと思います。反省したことも、学んだこともたくさんあったので、大変よい経験になりました。(生徒感想文より)〉

第2回医歯薬講演会

5月25日(水)に医歯薬講演会を実施し、講師の先生として、本校の校医でもおられる中島消化器内科 院長 中島道也 先生をお迎えしました。現在の医療の状況から、医学部受験まで幅広くお話をいただき、生徒達はしっかりとその言葉を受け止め、医療従事者になる心構えを学ぶことができたようです。

〈医師になるために大学に合格することはスタートに過ぎず、入学してから夢中になって勉強することが大切で、それを続けることで将来嬉しいことや楽しいことがあるという言葉が印象的でした(生徒の感想 抜粋)〉



大学出張模擬授業

5月30日(月)に1,2年生を対象に、大学出張模擬授業を行いました。講師の先生は茨城県立医療大学 理学療法学科 助教 篠崎真枝先生、放射線技術科学科 教授 窪田宜夫先生です。篠崎先生には理学療法と作業療法の違いや運動をするときの体の動作について、窪田先生には現在心配されている放射線の影響や医療に役立てられている放射線の治療や診断について詳しくお話を頂きました。

〈私は理学療法という言葉聞いて初め何もイメージできませんでした。しかし、今回の講演で、医師、看護師、薬剤師、理学療法士などによるチーム医療について理解することができました(生徒感想抜粋)〉



県民の日イベント

5月28日(土)茨城県立こども病院において2011年『こどもの日&看護の日』スペシャルイベント～こども病院の看護に触れてみよう～が実施され、本校医歯薬コース1年生から4名の生徒が参加しました。「いのちを尊ぶ医療の現場から」をメインテーマに現場で

働く看護師さんによる講演会が行われました。

〈今回の講演で、看護師に対するイメージが大きく変わりました。こども病院の看護師は患者のことを第一に考え、患者が不自由を感じないように努力していました。看護師とは、知識だけでなく道徳心をも必要とする職業であることを痛感しました。(生徒感想抜粋)〉

文化祭

6月18、19日に葵陵祭が行われました。医歯薬コースでは本年度もモザイクアートの制作に取り組みました。3年生を実行委員として、各学年が協力して完成させるモザイクアートは、医歯薬コースの伝統になりつつあります。今年の題材はドラクロアの「民衆を導く自由の女神」。〈今回の震災で日本は大きな影響を受けました。皆を元気づけるような題材にしたいと思ってこの絵に決めました。作業中はトラブルもありましたが、完成した時は達成感がありました〉(実行委員長) 今年も2日間とも晴天に恵まれ、力強い女神の姿を披露することができました。



茨城大学が仁心クラブ・フェスタ

5月7日(土)茨城大学理学部においてサイエンステクノロジーフェスタ 2011 が実施されました。医歯薬コースの1、2年生の希望者が参加しました。「地学から見た東日本大震災」「整数論入門」「放射能の健康影響ー正しく怖がるための知識ー」など最新の話題の講義を受講し、高校の授業とは違う貴重な体験をし、自らの進路に活かそうとする姿勢が見られました。

推薦図書

『なぜ人は砂漠で溺死するのか「死体の行動分析学」』法医学者 高木徹也(メディアファクトリー)

日本で死亡者の中で異常死が占める割合がどれほどか想像がつくだろうか。実に19%が異常死である。しかし、日本国内で解剖の出来る法医学者の不足は深刻で、日本中で150人程度しかいない。そのために、適当な理由がつけられている例が多いためにドラマなどにも取り上げられる機会もしばしばある。この本は法医学者であり、東京都監察医であり、多くのドラマで医学系のトリックや手術シーンの監修を行っている高木徹也さんが、死因の種類や判定の仕方を自分が接してきた事例をもとにわかりやすく解説している。また、その死体から

くみ取った様々な死に様、そして感じたことについて書き綴っている。客観的に死体と向き合い、死者の言葉に耳を傾けていたからこそ感じたものが多い。死についてもっと理解することで、命の大切さを理解できると思う。普段敬遠しがちなものだが、だからこそ読んで欲しい一冊である。

医学部入試情報

茨城県の医師不足解消を目的に、「茨城県地域医療医師修学資金貸与」の制度が設けられています。これに伴い、一部大学において「医学部地域枠入試」が実施されています。今年度は以下の大学で実施が決定しました。

筑波大学9名、東京医科歯科大学2名、東京医科大学7名、杏林大学2名

昨年同様、筑波大学、東京医科歯科大学及び東京医科大学は推薦入学試験で実施するため、受験資格は現役生及び1浪までを対象とし、杏林大学は一般入学試験で行うため特に制限はありません。また、実施枠も昨年より5名増加し20名となっています。筑波大学はセンター試験を課しませんが、東京医科歯科大学はセンター試験の受験が必要となります。

茨城県立医療大学推薦入試

推薦入試の選考は、日本語と英語の小論文、面接及び書類審査(調査書・志願理由書・推薦書等)で行われます。また、各学科のアドミッション・ポリシーには、部活動、クラブ、地域サークル、趣味等の継続して行ってきた活動や障がい児・障がい者・高齢者・地域などへの支援活動等のボランティア活動の経験があることが望ましいと書かれています。さらに、それぞれの仕事の内容を十分に理解し、働く現場での見学経験があることが望ましいとされています。

1・2年生で、茨城県立医療大学の推薦入試を志望する生徒は、募集要項の各学科におけるアドミッション・ポリシーをよく読み、これらの条件に該当するよう、早めに活動を行うことが大切です。

行事予定

7/25(月)～29(金)夏期課外Ⅰ、
8/1(月)～5(金)夏期課外Ⅱ
8/17(水)～19(金)夏期課外Ⅲ、
8/22(月)～26(金)夏期課外Ⅳ (1、2年は学習合宿23日～26日)
9/1(木)始業式
9/3(金)河合塾模試(1、2年)